

誰にも感染リスクがあります。 まさか自分が?!と思わずに予防を



歌手・声優

速水けんたろうさん

プロフィール

NHK『おかあさんといっしょ』第8代目歌のお兄さんとして活躍。『だんご3兄弟』の大ヒットにより、第50回NHK紅白歌合戦に出場を果たす。現在は、ファミリーコンサートを全国各地で展開するかたわら、舞台俳優、声優、大学講師としても活動中。

新型コロナに感染し、1ヵ月に及ぶ闘病生活を経験した速水けんたろうさん。発症から回復までの経緯と、「WITH コロナ」を生きる心構えについて伺いました。

病気の経過

4/3	体の痛み、発熱
4/6	保健所の紹介で受診。PCR検査を受ける
4/7	PCR検査で陽性（妻・次男も陽性）
4/10	入院（夫婦ともに）。酸素吸入の必要な中等症に
4/14	アビガン使用
4/15	翌日、平熱に
5/4	退院

1 自宅待機中に症状悪化 不安な日々を過ごす

歌手、ミュージカル俳優として、日ごろからジムに通って体を鍛え、もう何年も病気をしていなかったという速水けんたろうさん。それだけに「まさか、自分が新型コロナに感染するとは思いませんでした」と当時を振り返ります。「4月3日の朝ベッドから出ようとする、まっすぐ立つことができないほどの激しい痛みを腰に感じました。この痛みは一体何だ?!とと思っているうちに、38℃台の熱が出始めたんです」

妻と次男も発熱したため保健所に相談。近所の医療機関でPCR検査を受けると、3人揃って陽性の判定が。「病室に空きがなく入院先が決まるまで自宅待機になりました。幸い息子はすぐに回復しましたが、僕と妻は次第に具合が悪くなってきて…。3日後に入院できるまですごく不安でしたね」



「肺の病気で心配していた歌声も、ステージで十分歌える手応えを感じています」

2 高熱に酸素吸入器。 過酷な闘病が始まる

入院直後から夫婦ともに症状が悪化。体の痛みに加えてせきや痰が出て呼吸が浅くなり、酸素吸入の管をつけるなど過酷な闘病生活が続きます。「それでも僕は入院後まもなく投与されたアビガンが効いて、早めに平熱に戻りましたが、妻のほうは投薬の効果がなかなか出なくて…。39℃台の熱が長く続いて『腕を動かすのさえしんどい』という彼女に、励ましの言葉をかけることしかできないのがつらかったですね」(ご夫婦は同じ病室に入院)。

さらに「症状が急激に悪化する」など、テレビで報道される新型コロナ感染症の新事実が、速水さん夫妻の不安を募らせます。そんな二人を支えたのが医療スタッフの力強い言葉と笑顔でした。

「僕たちの心を落ち着かせようと、看護師さんたちは常に笑顔で接してくださいました。担当の先生の『速水さんも奥様も絶対に治りますから!』という力強い言葉にどれほど勇気をいただいたか。ほんとうに感謝しています!」

3 退院後初めての散歩で 病からの回復を実感!

1ヵ月の入院生活を終えて無事退院した速水さんですが、さらにひと月、自宅待機での経過観察を求められます。「免疫力の低下で他の病気にかかるリスクが高まると言われ、一步も外に出ずに過ごしました。家の階段を登ろうとすると足が重くて、病気でここまで筋力が落ちるのか…とびっくり!ストレッチや軽い筋トレを続け、外出許可が出て初めて近所を散歩したときは涙が出そうなほどうれしかったですね」

今後はステージに復帰するかたわら、機会があれば新型コロナについても伝えていきたい、と速水さん。「僕が原因で家族を感染させてしまい、ほんとうに申し訳なく思います。ただ、いつかあったのか思い当たることがないくらい、予防には気を配っていました。だから決して『他人事』とは思わず、誰にも感染の危険があることを肝に銘じてください。そして万一感染してしまったときは医療スタッフを信じ、強い心で病気と闘ってほしいと思います」